体感する力、理解する力、探究する力、活用する力、共働する力

各主体の取組事例に対する定性的評価　ステップアップ・ワークシート

取組事例の名称等

愛知淑徳大学
（コミュニティ・コラボレーション センター（CCC））

ねらい

基本理念「違いを共に生きる」を体現するために、異なる価値観を認め合い、理解し合い、地域社会に役立つ人材を育成する。

学生の状況

新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けた学年もあることなど、学生一人一人が持つバックグラウンドは様々である。

成果指標

基本理念「違いを共に生きる」を体現するために、異なる価値観を認め合い、理解し合い、地域社会に役立つ人材を育成できたか。

■取組の内容（CCC）

1　開設科目の履修

2　学生団体の支援

CCC の工夫

・学生のレベルに応じて科目選択ができるように、複数の講座を開設。広い視野と行動力を身に付けることできるように地域活動へも参加。
・ステレオタイプの講義だけでなく、卒業生や NPO の方々の体験談を交えるように工夫。
・講義等で響いたものを体現するために、活動内容の立案や実施を仲間とともに実践。

見守り　共感・納得　成果実感

・学生自らが関心を持った地域課題の解決に向けて、継続した活動ができるように、学生の成長ステップを伴走支援。また、連携・協働先との調整をサポート。

見守り　成果実感

学生の反応

・卒業生や NPO の方々の体験談を直接聞くことで、活動の意義が心に響いた。
・仲間と共に活動することで達成感ややりがいを感じた。

・小学生への環境学習において、伝わりやすいように表現等工夫した結果、参加した小学生から好評であったことで、やりがいを感じた。

学生における学習の効果＆主に育まれる力

・ボランティア・社会貢献活動を受動的な姿勢で取り組むものではないという認識の変化が見られるようになった。

・実際にボランティア活動等を行うことで、多様な人との出会いを通して新しい生き方を実現する行動様式であることに気づくよう促すことができた。

・教職課程を履修していない学生も参加することで、学生同士が意見交換をしながら、多角的な視点で子どもたちへの環境学習を提供することができた。

■取組の内容（学生）

1　パスレル

コロナ禍における飲食店の休業で食品ロスに関心を持った学生が新しく立ち上げた団体。

フードドライブや子ども食堂などを中心に活動中。

学生の工夫

・団体の立ち上げに際し、フードバンク活動を行う NPO 法人などへ出向くことで、知識を増やすとととともに、必要な支援ができるように準備。
・豊田市等において、子どもたちへ直接食品を届ける活動を定期的に実施することで、地域とのつながりを深める。
・大学全体にもフードバンク支援を広げたいとの思いから、売り上げの一部が名古屋市内のフードバンクへ寄附される自動販売機を設置。

見通しOK　成果実感

参加者の反応

・毎月大学生に会うことを楽しみにしている。
・小学生向けにおこなう食品ロス講座では、楽しく食品ロスの状況を学ぶことができました！
・自動販売機の利用がフードバンクへの支援になることで、気軽に参加できるのがよかった。

学生における学習の効果＆主に育まれる力

・団体活動の企画立案、進行管理、ふりかえりという PDCA を実行することで、主体的な活動を実施することができた。
・各関係者と連携することで、社会とのつながりを実感し、生きた学びとなった。

２　エコのつぼみ

竹林整備とワークショップを主として活動。

NPO モリビトの会とともに美浜町で竹の伐採や竹炭作りを行うほか、ショッピングモールや小学校でのワークショップを実施。

・NPO と連携し、竹林整備として竹林の伐採、竹炭作りのほか、伐採した竹の有効活用のため、花々を育てる竹プランターのワークショップ等も実施。
・2007（平成 19）年から活動を実施しているが、継続した活動とするために、学生同士でやりたいこと、挑戦したいことを明確化し、主体的に取り組めるよう留意。
・コロナ禍ではオンラインでの講座やワークショップを行い、活動の幅を広げるように工夫。

本物体験　成果実感

・活動をする大半が高齢者となっており、継続しても終わりのない状況に限界を感じる時もありましたが、若者が一緒に参加してくれることで、活動を続ける糧になりました。
・竹炭消臭 POT をつくりながら、里山保全の大切さや間伐活動について知りました。
・楽しく環境について学べました。

・自主的、継続的に活動を続けた経験から、地域課題を解決する当事者として自分を位置づけられるようになった。

■愛知淑徳大学（コミュニティ・コラボレーションセンター（CCC））

・愛知淑徳大学は、「違いを共に生きる」という理念を掲げている。その理念を支え、具体的に実現していくべきテーマのひとつとして、「地域に根ざし、世界に開く」がある。
・CCC は、地域社会との連携により、理念を実現していくために、2006（平成 18）年 9 月に開設された。学生が様々な地域コミュニティとの交流や活動を通して、実践的な生きた知識や技術を学べるよう支援しており、現在約 30 の団体が活動している。

CCC

地域の方と稲刈り作業

商店街での文化交流ブース

山間地域の活性化（茶摘み作業）

学生の変容

【学生のコメント】
・誰かのために活動したいと思ったことを、様々な過程を経て実現させる中で、自らが主体的に行動するための「行動力」が大切であると気付き、この力が培われたと思う。
・様々な組織の方々と協力することで環境保全活動を続けられている。多くの出会いを積み重ねることで「対話力」「共感力」が育まれた。

【CCC のコメント】
・学生が変容していく姿と学生が地域を変化させていく姿をみながら、伴走者として、より地域によいコーディネートを意識していく。

成果と課題

【成果】
・授業内外における活動で、学生の主体性を尊重し、実践につなげることができた。
・事業者、NPO、行政等の多様な主体と連携するために、学生が積極的に関係者との調整を図るなど立場や状況に応じた役割を担うことで、地域社会への貢献につなげることができた。

【課題等】
・少子化等で地域の担い手が減少していく中、若者の必要性はより増している。学びが多い継続活動を行う若者の割合はまだまだパーセンテージが低いので、活動が必要な地域に必要なパワーとして入れる学生が増えるように促していくことを目指している。